

4月、いよいよ祇園甲部歌舞練場で都をどりの幕が開く。風物詩となっている恒例の公演だが、奥深い芸事とてなしの世界には、なかなか知る機会がなく、難しいと思われがちなのもある。華やかな舞台の背景を知らず、ひと味違った景色が見えるかもしれない。基本的な構成やその歴史など、初めて都をどりに触れる手がかりとなる知識を紹介する。

都をどりは全八景で構成される約1時間の公演。その間、一度も幕を下ろすことなく、舞台が明るいままたと場面を転換する「明転」の手法で基本的に展開していく。

まず「都をどり」は「ヨイヤサー」というおなじみの掛け声で舞い手が花道から登場し、銀橋を背景に舞う。この第一景は全真を説明する序曲にあたり、「歌」と呼ばれる。それから四季折々の衣装をまとった芸妓・舞妓が次々と現れ、梅の春から夏、紅葉の秋、冬の雪景色へと一景ごとに転換していく。途中、古典文学などを題材としたスト

四季の彩りを表現

リー性のある景も挿入される。フィナーレは校の名所を背景に全景の舞い手が勢ぞろいする。京都の春の風物詩となつている、都をどりを象徴する華やかな場面だ。



堂本印象が原画を担当した1955年のポスター



耐震改修前の祇園甲部歌舞練場で行われた2016年の都をどりの大ざらえ。フィナーレは姫路城を背景に全出演者でにぎやかに締めくくった

（橋上座席）を披露し、抹茶と菓子振る舞われる。耐震改修工事やコロナ禍の影響で都をどりの茶席はしばらく中止されておりましたが、今年5月に再開される。お点前の芸妓は、祇園の芸妓本来の正装姿。臨む髪は「京風島田」を結び、白塗りの襟足は3本の線を施す「三本足」、黒紋付に裏返した赤帯のぞく「襟裏返し」と呼ばれる装い。井上流にはこの姿で舞う「黒塗」などの地唄舞があり、今回の都をどりでも第七景に取り入れられている。

芸妓・舞妓がもてなす茶席

今年、都をどりは茶券付きの観覧券も発売される。黒紋付姿の芸妓が椅子に掛けて点前する「立礼式」の公開前に芸妓・舞妓によるお点前を見るのができ



芸妓・舞妓が立礼式の点前を披露する都をどりの茶席

都をどりの始まり

都をどり（都踊）は、1872（明治5）年、京都博覧会の「附博覧」として開催されたのが始まり。京都博覧会は東京遷都で灯の消えたような京の町を活気づけるため、前年から開かれていた。附博覧は、欧米の博覧会でよく行われていた娯楽性を伴う余興的な催しで、この時は3月13日から5月末までの80日間にわたって上演した。踊りの特色として、集団で一斉に舞う「総踊り」の様式を採用。1人か2、3人の座敷舞だった京舞で、このようなレビュー形式を盛り込んだのは画期的だった。芸妓・舞妓が勢ぞろいして舞う華やかさが外国人や観光客を魅了し、会場は連日にぎわいを見せた。明治時代に「チェリーダンス」と訳され、日本の名物行事の一つとして欧米でも知られていた。

その発端は、当時京都府大参事で後に2代目知事になる横村正直が、

祇園町の有力者だった一力亭九代当主・杉浦治郎右衛門に博覧会を盛り上げる手立てを相談したことにある。芸妓・舞妓を一堂に集めて華やかな舞台を披露してはどうかということで話はまとまり、杉浦が京舞井上流家元の三世井上八千代（片山春子）と鳴物の吉田咲松に協力をもち掛けた。それまで複数の流派が祇園町の芸妓・舞妓に稽古を付けていたが、三世は「できることなら他流を混ぜず、井上流のみで」と条件を出し、杉浦が了承。これを機に井上流に一本化し、吉田咲松の鳴物「香流」も祇園町の鳴物として普及させていった。

「都をどり」の名称については、横村は当初「みやび踊」を提案したが、三世家元が「都」を主張したので「都踊」となり、踊が「をどり」となったのは後年、祇園町になじみの深い吉井勇が古格を重んじてそうするよう主張したためと言われている。

格式ある舞と生演奏の音楽

京舞井上流は祇園甲部のみ育まれる女性の芸能であり、白拍子の舞などの宮中文化に由来する優美さと、能に強い影響を受けた硬直さを併せ持つ。創始した初代井上八千代は、1807（天明4）年生まれで、江戸と上方でさまざまな芸能ができたことがあった文化・文政の時代を経て、京の街で京舞を形作っていった。一世八千代は人形浄瑠璃が好きで能にも造詣が深かったことから、それらの要素を取り入れ、能掛かりや人形振りなどと言われる井上流の舞の礎を築いたと言われる。井上流ならではの格式ある舞が祇園甲部の基礎となり、祇園町としての伝統を支えている。



先月7日、歌舞練場開場式で舞を披露した舞妓たち

#舞台を彩るあれこれ

舞妓は地毛を日本髪に結び、毎月異なる季節の花をあしらった花かんざしを挿す。総踊りの舞い手は伝統的に桜と柳の花かんざしを挿して舞う。



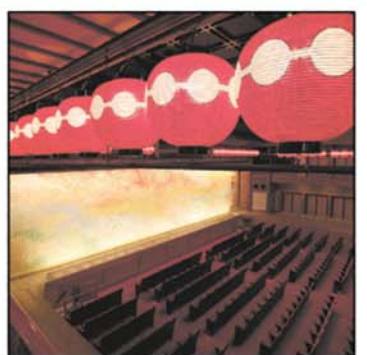
#花かんざし
#可憐な花のように
#際立つ愛らしさ

「ヨイヤサー」の掛け声が響き渡ると、柳と花の団扇を手にした芸妓・舞妓が花道にすわりと登場する。春の訪れを象徴するような印象的な幕開きのシーン。



#団扇
#おそろいの花
#春の彩りを手に携えて

祇園甲部のつなぎ団扇の紋章をあしらった提灯。八つの丸が町の連帯を表している。歌舞練場の内外や街路にも掲げられ、つやがよい風情を醸し出す。



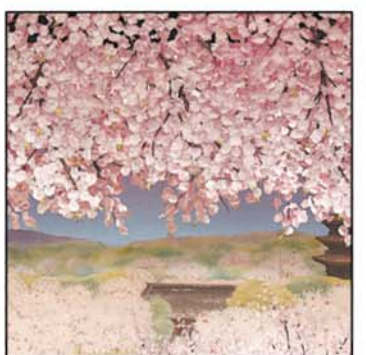
#提灯
#赤と白のコントラスト
#昔ながらの優しい光

衣装と髪型はその時代地域や役柄の人物像を表し、物語の背景を伝える重要な要素となる。毎年、演目に合わせて趣向を凝らして創作されている。



#舞台衣装
#かつら
#役柄の個性いろいろ

公演のフィナーレには、満開の桜の下で全出演者が舞を繰り広げる。細やかな色使いで背景画と調和し、桜の名所を舞台にいきいきと表現する。



#造花
#桜満開
#フィナーレを飾る

祇園甲部歌舞練場 新開場記念 都をどり 特集



鍵善良房

また祇園町に賑わいが戻ってきたことをうれしく思います。鍵善は創業以来この町で育てて頂きました。これからもどうぞよろしくお願いたします。



寿恵廣

扇子は末広がりの形から「寿恵廣」ともいわれます。先へ向かって広がっていく形状から末広がりによって幸福と繁栄が与えられるようにと願いが込められた縁起物とされています。

創業享保三年(1718年) **白竹堂**

京都本店
京都市中京区麩屋町通六角上ル
TEL 075-221-1341
営業時間 10:00-18:00

一喚風-三条寺町店
京都市中京区三条寺町角
TEL 075-221-8500
営業時間 12:00-17:00

<https://www.hakuchikudo.co.jp>

四条本店
京都市東山区祇園町北側 264 番地 ☎075-561-1818

高台寺店
京都市東山区下河原通高台寺表門前上 ☎075-525-0011

ZENCAFE
京都市東山区祇園町南側 570-210 ☎075-533-8686

ZENBI
京都市東山区祇園町南側 570-107 ☎075-561-2875